

TEEP

進化型実務家教員
養成プログラム

VOL.32

NEWS LETTER

TEEP 進化型実務家教員
養成プログラム

NEWS LETTER

VOL.32

発行者 TEEPコンソーシアム実施委員会 事務局 名古屋市立大学教務企画室内 〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
発行日 2022年10月1日 連絡先 E-mail: teep_office@sec.nagoya-cu.ac.jp



修論発表

臨床経験をどう研究に繋げていくか、それによって社会的に認められていくという部分もありますし、臨床心理学の発展という面でも研究は大切です。

実務家教員を目指す方は大変お忙しいとは思いますが、現場ならではの感覚やデータを大切に、研究論文にも挑戦していただきたいと思います。論文を執筆した経験が、学部生や院生の論文指導にも役立つはずですが、実務家教員には実践と科学を繋いでいくことが期待されています。

ただ、研究倫理の問題には注意が必要です。ご自身が大学や大学院で学ばれた時と現在では、常識とされていたことが全く変わっているかもしれません。倫理的な問題については常に学び、考えていく必要があります。

神谷 時代が違うといえば、私たちの学生時代、たとえば20年前とか、もっと前と今とでは大学は大きく変わっています。私たちの世代ですと「教授の都合で休講になった」と聞けば学生たちは喜んでいましたし、出欠をとらない授業もあったかもしれませんが、必要なことは各自で自由に学び、教育の質は学生・院生に任されていた部分があり、大学教員は「研究」を主としていました。

ところが今では休講になると「今日学べたはずの内容はどうしてくれるんですか、補講してください」と学生に叱られたりもします。つまり、現在の大学

教員は「教育の質を向上させるスキル」を求められています。

また、学生が座って講義を聴く、いわゆる座学での受け身の学習だけでなく学生自身が問いを立てたり、ディスカッションをしたり、現場で体験したことから発見的に学ぶ「アクティブラーニング」型の学習方法も強く要請されています。教員が一方的に知識を伝えるのではなく、学生たちが主体的に学ぶのを手助けするのが教員の役割とされ、教員に求められる姿勢が変化しているのです。

このように、現代の大学教員の立場や求められる能力を、TEEP基本コースでしっかりと身に付けてもらいたいですね。そうすれば、重要な経験に基づく知識を、新しい学び方で体得できる教育を実践していけるようになると思います。

不破 実務経験に加えて、時代に合った講義の方法や、臨床の経験をいかした研究の方法も学び続ける必要があるということで、専門コースに繋がっていくのですね。

神谷 中京大学のTEEP心理カウンセリングコースでは、ナラティブ・アプローチや質的アプローチといった比較的新しい心理療法や研究手法もカリキュラムの中で選択できるようになっており、知識をアップデートできます。また、「実践と理論の融合」という科目では、各現場における他職種との連携の実践を理論にしていく方法を、個別指導に近い形で学んでいただくことができます。加えて、研究指導や研究倫理を学ぶ授業もあります。つまり、受講される方が積んでこられた実践の経験を研究につなげる能力や、今の時代に合った方法で学生や院生たちに伝える能力を修得できるプログラムとなっています。

不破 つまり、現在の社会に求められている指導力が身に付けられるというわけですね。社会で活躍できる実務家教員を送り出すことが楽しみです。本日はありがとうございました。

11月16日(水)に「2022年度TEEPシンポジウム 及び 専門コースワークショップ」を開催いたします。詳細については、Webサイトにのご案内させていただきます。

<https://teep-consortium.jp/>



中京大学大学院心理学研究科では進化型実務家教員養成プログラム (TEEP) の専門コースの一つ「心理カウンセリングコース」を開講しています。「公認心理師」が国家資格となり心理専門職への関心が高まる中、臨床実務または対人支援実務経験者を対象に、実務経験を臨床教育・臨床研究に活かすことのできる進化型実務家教員を育成しています。心理専門職の養成課程を取り巻く状況と、実務家教員に期待される役割について「心理カウンセリングコース」に携わる中京大学心理学部の教員らの鼎談から紹介します。(文・不破早央里)

心理カウンセリングコース・対談



中京大学
心理学部 教授
神谷栄治さん



中京大学
心理学部 教授
臨床心理学領域主任
馬場史津さん



中京大学
心理学部任期制助手
不破早央里さん

現場での実務が重視される

不破 最初に神谷先生から、臨床心理学領域における資格をめぐる状況についてお話いただけますか。

神谷 これまで心理学を学んで精神科病院や教育相談センター等で心理相談や心理検査の仕事に就いている人は多かったのですが、日本では長く心理学に関する公的な資格のない時代が続いていまし

た。専門性を担保する資格が必要だという声を受けて、臨床心理士という資格ができたのが1988年のことです。臨床心理士は国家資格ではありませんが、かなり公の資格に近い形で認められ、中学・高校などでスクールカウンセラーとして採用されるようになりました。

しかしその後も医療機関や、災害時の緊急支援の際に医師や看護師といった職種とより密に、対等に働き連携していくためにはやはり国家資格が必要でした。2017年には「公認心理師」という国家資格

ができ、現在では臨床心理士が約4万人、公認心理師が約5万6000人となっています。公認心理師の方が歴史は短いのですが、臨床心理士として活躍されてきた多くの現任者の方が公認心理師の資格も取って活躍されています。

不破 現状、臨床心理学においては民間資格である臨床心理士と、国家資格である公認心理師の二つの資格があるということですね。それでは馬場先生、この新しい国家資格である公認心理師の養成課程について教えてください。

馬場 臨床心理士の受験資格を得るには、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定する大学院または専門職大学院で指定科目を履修・修了することが必要です。

対して公認心理師は、大学の学部で公認心理師の受験資格科目を25科目履修することが必要です。この25科目には、「心理演習」および80時間以上の実習を必須とする「心理実習」といった科目が含まれています。学部時代から現場実習が必須となっているのです。

さらに受験資格を得るためには次に述べる2通りのいずれかの条件を満たすことが必要です。1つは、医療機関や「少年鑑別所及び刑事施設」、「裁判所職

員総合研修所及び家庭裁判所」等の指定実務機関で2～3年の臨床実務経験を積むこと。もう1つは、大学院で指定の10科目を履修し卒業することです。この10科目のうち1科目は「心理実践実習」という科目で、450時間もの実習が設定されています。

このように、公認心理師の養成においては実習が非常に重視されています。実習を行う学生さんも大変ですが、指導する側である私たちも大きな変化を迫られています。大学の中だけでは公認心理師となるための教育はできません。学生たちが実習をする施設の職員の方にも実習指導をお願いしなければなりません。また、私たち大学教員も実習指導教員として、また違った視点から実習を指導し評価します。

不破 学部で80時間、大学院で450時間となると、学生生活の大部分を実習が占めることにもなりますね。

学生にとっては臨床心理士と公認心理師の2つの資格のどちらを取るべきか、違いはどういったことかという点も気になるのではないのでしょうか。

馬場 国家資格である公認心理師に対して、臨床心理士とは何なのかと考える学生さんもいらっしゃるでしょうね。

臨床心理士資格は、5年に一度の更新が必要です。



実習風景

公認心理師には更新制度はありません。臨床心理学は毎年のようにアップデートされている学問です。例えば、私が大学院時代に学んだことと、現在の疾病についての情報や解釈はかなり違ってきています。常に新しい知識を取り入れるためにも、専門職として研鑽を積み続けることは欠かせません。

また、公認心理師は実習を通じて医療や教育、法律といった他分野の専門家との多職種連携を学ぶことも重視されています。大変重要なことですが、他分野との連携の基盤となるのは心理職としての専門性です。心理検査や心理アセスメントなど、心理職ならではの専門性を高める科目は臨床心理士の養成課程の方が充実しています。ですから、現時点ではどちらの資格も必要であると私は考えています。

求められる「実習指導のできる教員」

不破 臨床心理学の専門性を深める側面の強い臨床心理士と、実践の知を積み重ねる公認心理師の両方の資格によって、専門職としての実力の証明になるとも言えそうですね。

ではこれまでのお話も踏まえて、現在の大学における心理学教育の状況を神谷先生からお聞きしたいと思います。

神谷 国家資格というのはやはり非常に影響力の大きいものです。国家資格が取得できるのであれば心理学部に進みたいという高校生も非常に増えていきます。オープンキャンパスでも公認心理師資格についての質問を大変多くいただきます。

ですから、今後はますます公認心理師の受験資格を取れる学部やコースを作る大学等の教育機関が増

えてくると思われます。それに伴い、公認心理師の指定科目を教えられる教員、特に実習指導ができる教員や、実習先での実習指導者がかなり多く必要となってくるでしょう。

そこで実務家教員への期待も高まっています。学内でも、実習先でも、臨床や対人支援の実務経験を学部生や院生に実習を通して伝えていける人が切実に求められています。

不破 実習指導教員や、実習先での実習指導者になるための条件はあるのでしょうか？

馬場 実習指導者に関しては、各施設の心理職の方で、5年以上の実務経験のあることが条件となります。大学からこうした条件に当てはまる方をお願いして、実習指導者になっていただいています。

大学側の実習指導教員、つまり実習科目の担当教員となるためには「教育歴」、要は大学などの教育機関で3年以上の実習や演習科目の指導歴が必要となります。ですから、実務家教員といえども、実務経験があるだけでは大学教員になることは難しい現状があります。

心理学の分野で実務家教員を目指される方は、まずは施設での実習指導者になっていただくのが良いと思います。そこで学部生や院生の指導の経験を積み、その後で大学で実習に関係する科目を担当する非常勤講師になり、常勤の教員を目指す、という具合にステップアップしていく道があると思います。

学生たちの発見をサポートできる教員に

不破 臨床心理学分野の実務家教員に求められる資質や期待があれば教えてください。

馬場 実務家教員は自らの実務経験を伝えることで後進を指導できるという強みがあります。私も精神科病院をはじめさまざまな職場で働いてきましたが、その臨床経験が、講義や学生の指導にも繋がっていると感じています。

一方で、臨床ができるだけでは教員にはなれません。やはり研究的な側面も必要です。自分が臨床現場で体験したことはどのような理論となっているのか、その理論はどう検証されてきているのか、つまり

公認心理師と臨床心理士の比較

	公認心理師	臨床心理士
資格の性質	国家資格 認定：厚生労働省・文部科学省	民間資格 認定：公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会
資格創設年	2019年	1988年
資格取得者累計(2022年7月)	約5万6千人	約4万人
受験資格	大学学部で「省令で定める公認心理師受験資格科目」25科目を履修卒業。加えて、大学院で同10科目を履修修了かあるいは指定実務機関で2～3年の臨床実務経験。	上記認定協会が認定する指定大学院・専門職大学院で指定科目を履修修了。
試験形式	筆記(多肢選択式)	第1次試験：筆記(多肢選択式および小論文) 第2次試験：面接
更新制度	なし	あり(5年ごと)
資格取得後の研修参加義務	なし	実質上あり(資格更新のために必要)